

## 【中学部 国語② 実践の概要】

○中学部2年 国語 (単一障がい学級)

○本時の題目：「作業学習の工程をわかりやすく伝える文章を考えよう」

○本時の目標：

- ・わかりやすい説明文を書くためには、事柄の順序に沿って文を構成する必要があることがわかる。(知・技)
- ・「工程カード」を工程順に並べ替え、適した接続詞を選んで、説明文を作成することができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては「時系列を意識して説明文を書く相手に伝わりやすいことを理解し、意識して接続詞を使えるようになってほしい」というものであった。そこで、接続詞を題材にした授業を行った。小学部の子どもたちに作業学習の説明を行うという場面設定とし、作業工程を時系列に並べて、ペアになった友だちと、正しい接続詞を選んで文章を完成させるというものであった。生徒同士で前時までの学習を振り返りながら、思考する様子が見られる授業であった。

## 【良かった点・工夫されていた点】

- すぐに今日の流れやめあてを提示するのではなく、生徒の言葉で前時の振り返りを行うことで、生徒にとってわかりやすいめあてと活動になっていた。
- 事前に小学部の教師に依頼して準備した、「小学部の児童に、中学部になると始まる作業学習の内容を説明してほしい」という内容の動画を視聴したことで、小学部の児童たちに教えてあげたいという気持ちが芽生え、自分事として取り組む様子が見られた。
- 接続詞の使い方の例で、わざと間違った使い方を教師がし、それを生徒たちが指摘するという場面を設定したことで、生徒たちに「なにか違う」、「こうの方がいいんじゃない」といった気づき生まれ、生徒同士で話をする様子が見られた。
- ペア活動にしたことで、お互いの意見が違うときに、自分の意見を伝えながらも、どちらが正しいのかを思考しながら、答えを導こうとする姿が見られた。
- 対象生徒が答えを間違える場面があったが、それについて、すぐに間違いであることを伝えず、ペアの生徒と再度考える機会を作ることで、自分たちで解決しようとする姿が見られた。
- 題材の最後に小学部の児童に説明をする時間を設けることで、「小学部の児童が聞いたときに、伝わるだろうか」という視点で生徒たちが考えている様子が見られた。

## 【課題】

- 「はじめに」、「つぎに」、「最後に」といった接続詞を並び替える問題であったが、その接続詞自体の意味を対象生徒はまだ理解しきれていない様子であった。
- 例文として、1か月前に行ったみかん狩りの活動を示していたが、文章のみの提示であったため、一部の生徒はみかん狩りについて、どのような活動であったかを忘れていた。

## 【助言】

- 接続詞一つ一つの意味やその使い方についての理解の定着を図るためにも、具体的な場面や事例を示し、生徒の言葉で説明できるようにすること。
- 体験していたみかん狩りの説明文を例文にしたことはよかったが、その活動自体を忘れていた生徒がいたので、視覚支援として写真や映像を用いるようにすること。

## 【総括】

「小学部の子どもたちのために、わかりやすく説明したい」と授業後対象生徒が話していた。小学部の子どもたちに伝えるためにという課題を設定したことで、主体的に取り組む様子が見られる授業であった。また、教師が教えすぎないように、生徒自身で考える時間やペアで考える時間を多く設定したことで、対話を通して思考する場面が見られた。小学部の子どもたちのためにという気持ちから主体的に取り組み、どうすれば伝わりやすいかを対話を通して思考し、答えを導き出そうとする深い学びにつながる授業になっていた。